

釜石港湾口防波堤の現地見学会（時間変更）のお知らせ

～特殊な逆T型ブロックによる潜堤構造の採用～

当事務所で復旧工事を進めている釜石港湾口防波堤は、港を出入りする船舶のために、航路部分に開口部が設けられています。開口部は津波を防ぐ上で非常に重要な部分で、水深30mまで捨石が施工（潜堤^{※1}構造）されています。この部分の震災復旧工事は津波来襲時に捨石の流出を防ぐために、従来にはないコンクリート製の逆T型ブロック^{※2}を使用した特殊な構造が採用されています。（別図参照）

このブロックの設置状況を公開するため、現地見学会を報道機関の皆様に対し開催する旨、再度お知らせいたします。

※1 潜堤 津波の湾への流入量を最小限にとどめるために海面下に設けられる構造物

※2 逆T型ブロック形状：長さ10m、幅16.0m、高さ10m、重さ約876t

記

1. 日 時：平成27年2月2日（月） 11:30～14:40（予定）
2. 見学場所：釜石港 平田作業ヤード～湾口防波堤（開口部）
3. 集合場所：釜石港湾事務所（釜石市港町2-7-27）
4. その他：概略行程及び復旧イメージ概要（別紙参照）

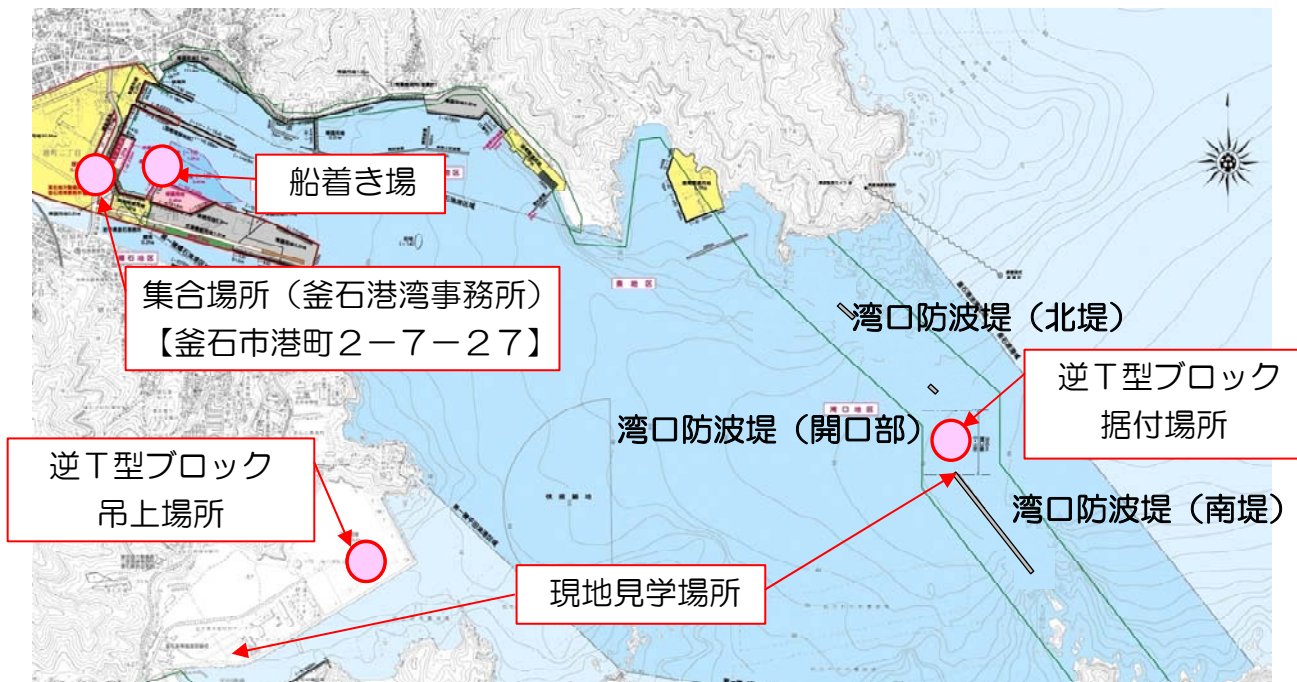
<問い合わせ先>

国土交通省 東北地方整備局 釜石港湾事務所
電 話 0193(22)9118
FAX 0193(22)4651
副 所 長 まつぶち さとる 松 渕 知
企画調整課長 こすぎ よしゆみ 小 杉 宜史

○逆T型ブロックの見学会概略行程（詳細）

- 11:30 釜石港湾事務所集合
見学会概要説明
平田作業ヤードへ出発（各自移動：先導車有り）
- 11:45 平田作業ヤード到着
（到着後逆T型ブロック吊上状況見学）
- 12:30 平田作業ヤード出発
（各自移動：先導車有り）
- 12:45 船着き場到着（港湾業務艇：『くろがね』乗船）
- 12:50 船着場から出港（船内で工事概要説明）
- 13:10 据付見学場所到着（湾口防波堤（南堤）上）
（到着後、逆T型ブロック据付状況見学）
- 14:15 据付見学場所出港
- 14:40 見学会終了（予定）（船着き場到着後、解散）

○集合場所、見学場所位置図



○逆T型ブロックによる潜堤の効果

津波を防ぐためには釜石湾を防波堤で全て囲ってしまうのが理想的ですが、それでは釜石港に船が出入りすることができなくなります。そこで、水深約 60m ある釜石湾口防波堤の航路部分に、水深約 30m まで石材を投入し、船舶の入出港には支障はないが、津波の侵入はある程度防止できるよう、潜堤部を設置しています。これによって、市街地への浸水面積軽減などの効果が期待されます（下記図面参照）。

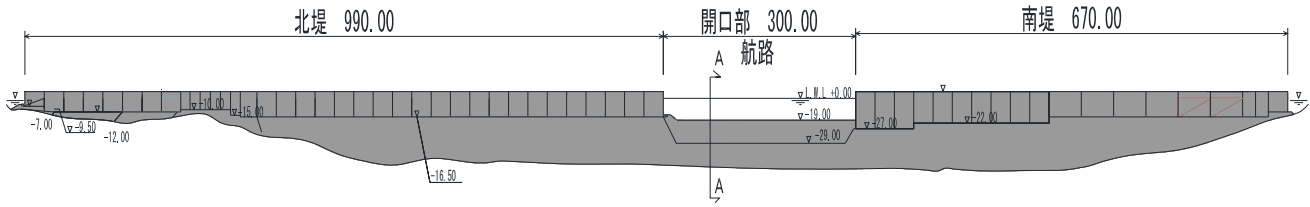
津波が釜石湾に来襲すると、潜堤の部分に津波が集中して、とても速い流れが発生します。このため、通常用いられる構造では、潜堤を構成する石材が流れのために流失し、崩壊してしまう可能性があります。

これを防ぐため、東北地方整備局では模型実験等も行った上で、今回施工されるコンクリート製逆T型ブロックを採用致しました。基礎石材上にこれを設置した後、さらにその上から石材を投入して逆T型ブロックを安定させ、津波による速い流れにも耐えられる構造としました。

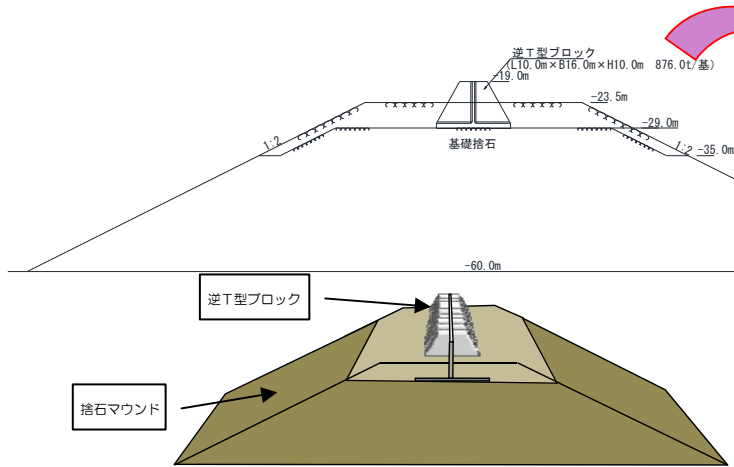
こうした構造は極めて珍しく、東日本大震災の復旧工事で採用されたのは釜石港と大船渡港の2港のみとなっています。

○開口部 潜堤 復旧イメージ概要

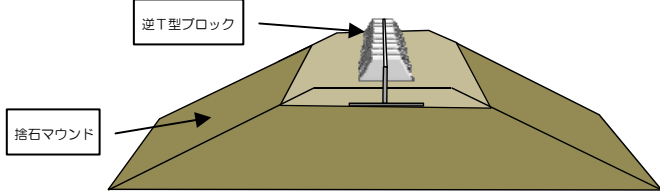
開口部 潜堤縦断面図



開口部 潜堤断面図(A-A)



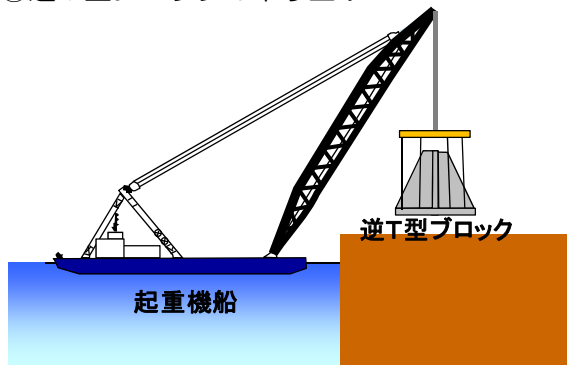
逆T型ブロック製作状況(平田地区)



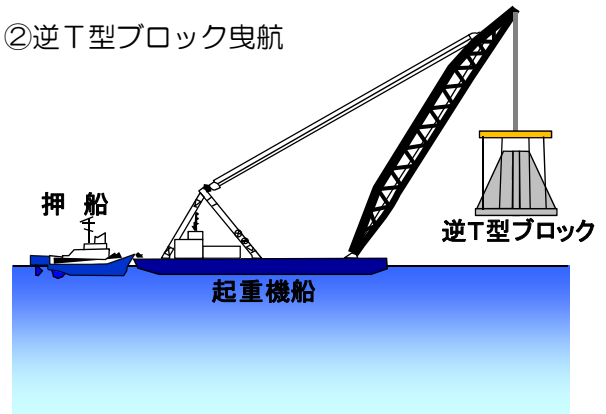
開口部 潜堤の形状

○逆T型ブロック据付手順

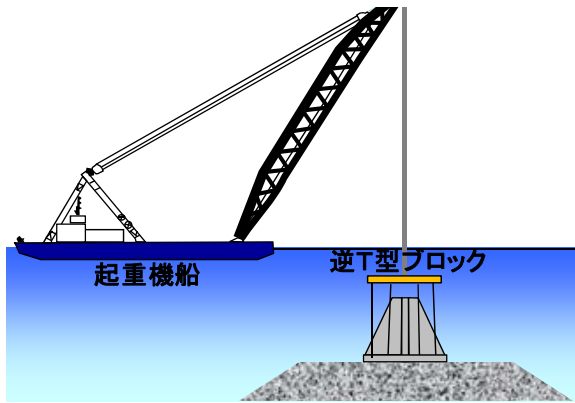
①逆T型ブロックの吊り上げ



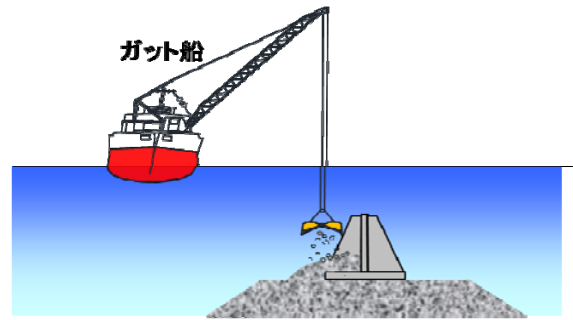
②逆T型ブロック曳航



③逆T型ブロック据付



④被覆石の投入



※赤枠箇所：今回の見学会で見学可能な工事内容